

遠隔学習支援システムを用いた教育・保育実習の実践

A Study on Practice of Education Training Using Distance Learning Support System

平野真紀 恒川直樹 卜田真一郎 奥石由美子
糠野亜紀 新谷公朗 植田 明
常磐会短期大学幼児教育科

Abstract: As for all infants, childcare suitable for each child is demanded in kindergartens and nurseries. Since teachers and their assistants are always striving to improve their childcare abilities, improving the practical ability of student teacher training colleges is necessary. This study develops a scheme called “Problem Based Learning” through which students acquire the ability to find problems and solve them by themselves. Techniques to show below are described in this study: a) It is connected to the college between a kindergarten, from which the students receive practical training, by the Internet line that the picture reception is possible. b) “Training reflection meetings” are carried out on the Internet among students, training advisers, and college professors based on training practice video records. Students reported the following advantages as a result of practice and meetings: a) Immediate advice from the training adviser and the college teacher after practice benefited future training; b) practice video records were effective when students looked back on training. We confirmed that practice was connected to education theory and to systematic understanding by the students, because the college teacher cooperated with the training adviser of the kindergarten. Using our system proved effective not only for student-teachers but also for the remedial education of kindergarten teachers.

Keywords: Training college, Teaching practice, Distance e-Learning, Problem Based Learning

1. はじめに

幼児教育では、保育現場に求められる「実践力」や「問題解決能力」をどのように育成するかが、保育者を養成する大学・短期大学の大きな課題となっている。このような状況において、教育・保育実習（以下、実習と略す）は、講義や演習によって獲得した知識・技術を駆使して、現場の問題を解決する力を養う貴重な機会として捉えられている^{[1][2]}。

しかし、これまでは、時間的・距離的な制約もあり、実習期間中に大学の教員が積極的に実習に関わることが難しく、実習生をきめ細やかに指導することに限界があった。また、子育て支援等、保育が多様化する中、保育者には高い専門性が求められている。そのため、

保育者養成のカリキュラムは、量・質共に高度化しており、その理論と実践を結びつけるための実習においては、指導方法を検討する必要があると考える。

このような背景から、本取り組みでは、「遠隔学習支援システム」を用いて、実習生の学習効果の向上を試みている。これにより、大学教員と実習協力園側の指導者が連携した指導を実現し、大学教員がより積極的に現場での実習指導に関われる体制の構築を目指している^[3]。

実際にITシステムを利用した遠隔実習指導では、実習生が大学教員のアドバイスを翌日の実習にすぐに活かせるという利点だけではなく、実習協力園の指導者にとっても実習生への指導方法を学ぶ機会となり得ることが確認できた。

Maki Hirano*, Naoki Tsunekawa, Shinichiro Shimeda,
Yumiko Koshiishi, Aki Kono, Kimio Shintani and Akeru Ueda
Tokiwakai College
*E-mail:hirano@tokiwakai.ac.jp

2. 保育現場と大学との連携

従来、保育者を養成する大学の教員は、実習期間中に実習園を訪問し、実習園の担当教員から実習生の様子を聞いたり、実際に実習生と話したりするなどの「訪問指導」という形で学生の支援と指導に携わってきている。しかし、時間的な制約もあり、学生の保育実践に立ち会ったり、実習園の指導教員と大学教員が意見交換を行ったりすることが難しく、実習期間中の指導は、実習協力園である保育現場の主体的な協力に負うところが殆どであった。

そこで、大学教員が、実習期間中に即時的に実習生の支援・指導を行う方法として、インターネットを利用した、「遠隔学習支援システム」を用いて即時的な支援・指導の実現を試みている（図1）。システムを介して、遠隔地であっても、保育に関わっている学生の様子、学生の作成した観察記録や指導案を動画や画像データとして共有・閲覧しながらディスカッションすることができる。

今回の取り組みでは、システムを用いて、責任実習^①の後に行われている実習園の指導者と実習生による反省会に、大学教員も参加

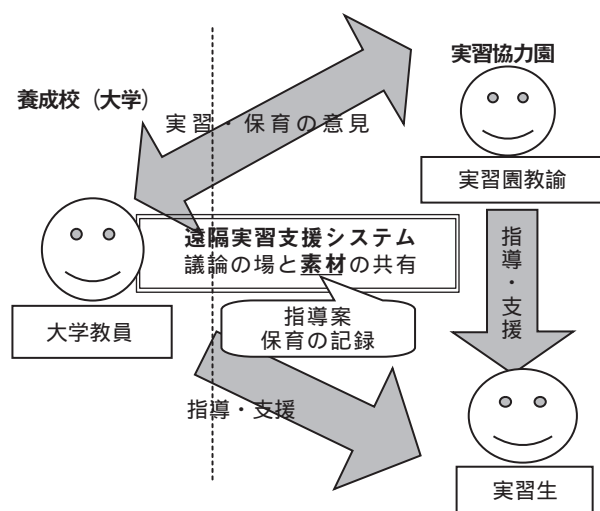


図1 遠隔実習反省会の概念図

して指導や助言を行った。反省会を実施するにあたり、学生の作成した保育指導案、保育の様子を記録したビデオを用意した。大学教員が、実習の様子をじっくり観察することが難しい場合でもこれらの情報を基に、即時的な支援と指導を行うことができる。これまででは、実習終了後に学生の記憶や記録を基に行っていた指導が、現場での実践と対応して即時的に行うことが可能となり、実習を自ら課題を発見し、解決を試みる機会とすることができる。また、大学教員と実習園の指導者が、互いの知識や経験を持ち寄り、実践知と理論知の両側面を交流させて連携を深める機会になると考えている。

3. システムの概要

基盤となる「テレビ会議システム」については、A社のWebコミュニケーションシステムを使用して構築し、動画データを安定して配信できるよう、N社の光通信網を利用したサービスを採用した。図2は、システムの概要を示したものである。ネットワークは、個人情報扱うことも想定し、VPN（virtual private network）により機密性を保持している。

図3は、システムの提供する画面の一部である。実習園が、システムを利用するために特別なアプリケーションを用意する必要がなく、インターネットの環境があれば、利用が可能である。実習の様子を撮影した動画^②や静止画、指導計画等も資料として両者が共有できる。紙ベースの記録に頼った反省会では、記憶や印象も時間の経過により曖昧になりがちであったが、システムの利用により動画による記録と即応的な対応が可能となっている。

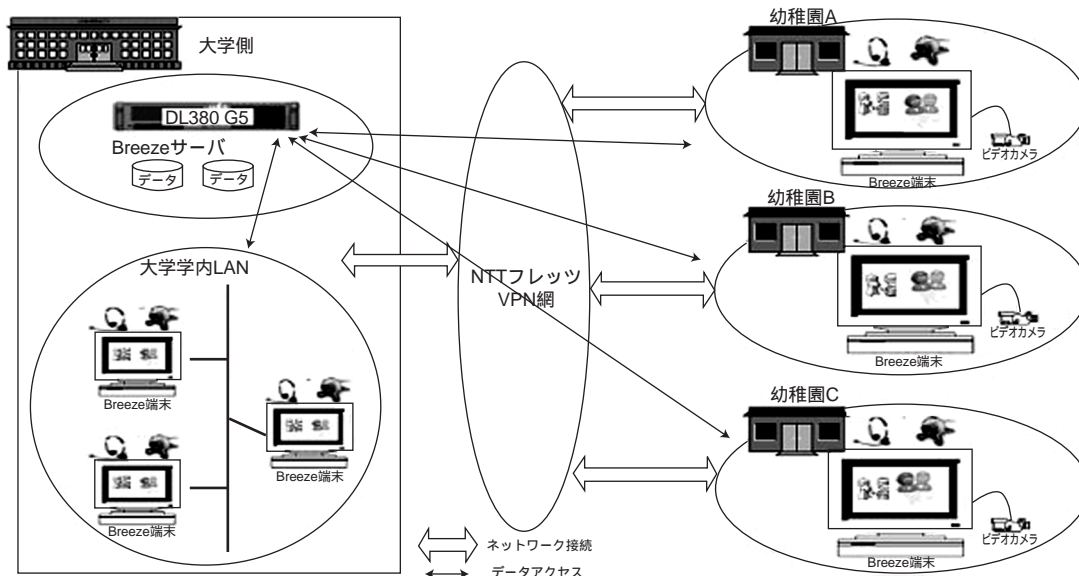


図2 遠隔学習支援システムの概要

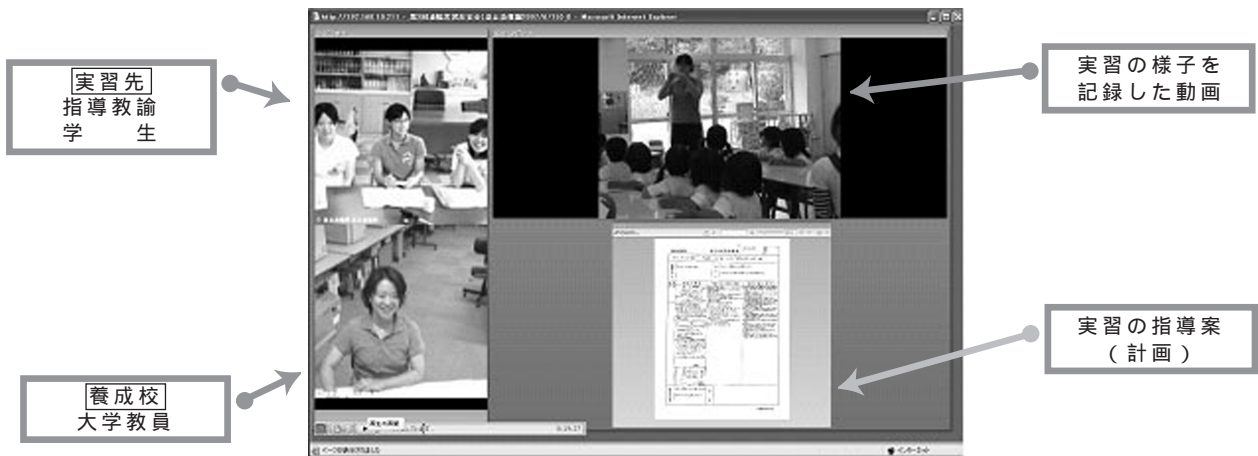


図3 遠隔実習反省会の概念図

4. 実習における実践

平成18年度の11月と2月の教育（幼稚園）実習において本システムを利用した実習指導を実施した。システムを利用した実習反省会は、初めての試みであるため本学の附属幼稚園に導入した。遠隔実習反省会とそこに至るプロセスを以下に記す。

- ① 実習生による保育指導案の作成
- ② 指導案に対する実習園の指導教員による添削
- ③ 修正された指導案を基にした保育実習の実践（ビデオ等による記録）
- ④ 遠隔反省会用の資料の作成（指導案の電子化・ビデオ編集等）

- ⑤ 遠隔実習反省会の実施
- ⑥ 実習生による反省会の記録作成（実習日誌）

このような実習反省会を2週間の実習期間中に2回実施した。

実際の実習反省会は、前述した指導案、あるいは責任実習のビデオ記録をシステムの画面上で共有し、実習生の保育の様子などを素材にしながらディスカッションを行う（図4）。反省会は、責任実習の実施された当日、あるいは翌日に1時間程度実施した。また、反省会には責任実習を行った実習生と指導教員だけでなく、実習園の教員、その他の実習生も参加し、大学側も複数の教員が参加して実施した。



大学側



実習園側

図4 遠隔実習反省会の様子

他の実習生も反省会に参加することで、自分の実践を振り返る機会になると考えている。

5. 実践の結果

システムを利用した反省会に参加した学生の反応は、概ね良好であった。実習園の指導教員の負担も増大するが、実習生を受け入れる保育現場の指導者としての新たな気づきもあり、大学教員の反省会への参加には、賛同を得ることができた。

実習反省会実施後に行ったアンケートと聞き取りによる調査から下記のような意見が得られた。

(1) 学生の評価

ある学生から、「実習で保育をしている時は、緊張感もあり、精一杯の状態なので、細かいところまで覚えていないが、ビデオを利用し自分自身を振り返ることで、失敗に気づき、改善点の発見もできた。また、指導を頂く際には、指導案などの文書だけでなく、私の表情や行動などについても助言して頂けた」と、映像の有効性に関する意見が得られた。また、「実習園」「実習生」「短大教員」の3者による反省会については、実習園の指導教員と大学教員の意見の違いに戸惑いなが

らも、「保育にはいろいろな見方がある」という“気づき”を得ていた。

(2) 指導教員の評価

実習生だけでなく指導教員も、教材研究の方法や次の遊びへの視点の方向付けなど、保育の専門的な立場からの助言を聞くことができた。また、指導教員からは言いにくいことを大学教員が指導してくれる。指導者自身が気づいていなかったことについて大学教員から助言があることは、今回の試みの良い点であったという意見があった。

本システムの利用により、

- ① 現場の指導教員というファシリテータのアドバイスを学生がどの程度理解できているのかを知る機会になる。
- ② 即時的に助言と指導を行うことは、実習生の保育実践への理解を深める効果がある。
- ③ ビデオによる記録は、指導・支援すべき課題がより目に見える形になり、実習生にとって、自分の保育を見直す機会になる。
- ④ ビデオによる記録は、問題を焦点化しやすく、指導されている点が具体化され、繰り返し見られる点も、学生の指導には、

有効である。

等の効果があることが確認できた。

しかし、一方でシステムの利用は、実習園の指導教員が、発言しづらいのではないかと懸念、映像を活用する上で、園側の了解にとどまらず保護者個別の了解を得る必要性や、「プライバシー保護のための画質劣化」と「指導の資料として使用するための明瞭な映像」の相反する問題等の課題も明らかとなった。

以上のことから、今後解決すべき課題はあるものの、本取り組みが、これまでの実習における指導に比べ実習生の「問題を発見する力」や「解決する力」を養う方法として有効であることが確認できた。今後は、遠隔学習システムを用いた実習支援をより多くの実習園との間で実施できるような体制を構築したいと考えている。また、反省会の材料となるビデオの撮影・編集等を含め、資料としてどの程度のものが必要かを精査していくことも必要であると考えている。また、実習生に対して、より適切な指導・助言ができるよう、方法論についても検討を要すると考えている。自分の実践を可視化し、対象化すること、自分の失敗に気づき、改善点を発見できることで、保育に対する課題を、より明確化できる実習と指導体制を構築したいと考えている。

6. まとめと今後の課題

本取り組みを通して、遠隔学習支援システムを利用した実習指導・支援が、教育現場と大学の連携の強化に繋がることが確認できた。これにより大学において学んだ理論と現場での実践を即時的に支援することで、保育現場に求められる問題解決能力の養成に可能性を感じている。実習への即応性、様々な記録を活用した指導法は、資質の向上が求めら

れる保育者養成に迎え得ると考えている。

今後は、より多くの学生に指導が行えるよう、システムの運用方法等の検討を進めて行きたい。また、遠隔実習反省会のイニシアチブを大学側、実習園の間で、いかにうまくバランスさせていくか、ビデオ撮影・編集に係る時間と労力を軽減するためのシステムについても検討していきたいと考えている。

謝辞

本取り組みを実施するにあたり、ご理解とご協力をいただいた実習園の先生をはじめ保護者の方に深謝申し上げます。また、システム開発にあたり、助言・指導頂いた同志社大学大学院工学研究科金田重郎先生、芳賀博英先生、甲南大学情報センター井上明先生に深謝します。

注

- (1) 責任実習には、1日通しで指導者（クラスの担任）として保育を行う全日保育や、任意の時間帯についてのみ保育活動を行う部分実習等がある。
- (2) 子どもの様子が撮影された動画および静止画像の使用については、保護者の理解と撮影の承諾を得た上でを行い、原則として動画の再利用については、禁止している。

参考文献

- [1] 黒崎東洋郎:自己教師力量形成力を育てる教育実習カリキュラムの開発 1年次教育実習カリキュラム. 岡山大学教育学部研究集録114,pp.19-25,2000.
- [2] 植田明他:課題解決能力を高める実習支援とその体制の構築—常磐会短期大学における教員養成GP取組の中間報告と展望—. 日本保育学会, 第60回大会,2007.
- [3] Donald R. Woods, 新道幸恵:PBL(Problem - based Learning)—判断能力を高める主体的学習. 医学書院,2001.